

大阪体育学会 50 周年記念大会を顧みて

前理事長 溝畑寛治

記念事業を終え、安堵の気持ちで一杯なのが正直、現在の心境であります。今大会は、50 周年と言う記念すべき大会であり、テーマが「なにわのスポーツをひもとく」であることから、従来の講演会、シンポジウム、一般研究発表に加えて、特別イベントとして北京オリンピック陸上（4×100 メートル）銅メダリストである朝原選手のランニング教室や同じくトランポリンのオリンピック選手である上山・廣田両選手による実演発表会等の開催と共に、スポーツの大会やスポーツ組織、そしてスポーツ産業などの多くが関西（大阪）で発祥していることから、それらの歴史的背景を探る展示等、多彩なプログラムを実施することとなりました。

大会を運営するに当たり、実行委員会が設置され、各々の部門別に大会を盛り上げる計画が進められました。準備に精力的に携わっていただいた先生方には、大変苦勞があったことと推察いたします。特にイベント部会では、従来の大会要領に加えて実施された特別イベント開催（ランニング教室・トランポリン実演発表・展示等）の準備・諸手続きなど、こんなに多くさんの事をやらなければならないのかと改まって痛感させられました。また記念行事につき物である祝賀会においても、招待者への連絡から会員への通知、会場の準備、設営など大変であったと思われます。ご尽力いただいた先生方に改まって感謝申し上げます。しかしながら 2 日間にわたる日程ではありましたが大変多くの参加者があり、特別イベント会場や展示会場では新たな試みによる感動が伝わってきましたし、講演会やシンポジウムでは、活発な意見交換が成されるなど充実した大会を送ることが出来ました。これもひとえに学会活動に賛同していただきご協賛いただきました各企業の皆様のご協力のおかげであると感謝いたしております。今後ともよろしく願いいたします。会員の皆様には、多くの研究発表や論文の投稿など、積極的な学会大会への参加があったことを喜んでいきます。

我々人間は、生まれてから幾多のセレモニーを経て成長していくものであります。この学会も誕生以来それぞれの節目でセレモニーを行い成長してまいりました。今回のセレモニーを経てこの学会が益々発展することを願うと共に努力していきたいと思っています。